

第 113 回実践勉強会 実施レポート

2019 年 12 月 3 日 大田文化の森 多目的室

共催 大塚製薬(株)

参加者 73 名

<令和元年 12 月 3 日(火) 実践勉強会 質疑応答>

演者:代々木の森診療所 院長 大下 隆司 先生

演題:ブレクスピラゾールの活用を考える

【質問①】

・レキサルティの治験データを見ると、6 週間で経時的に PANSS スコアが改善しているが、更に継続して使用することにより PANSS も更に改善していくのか？

⇒6 週間以降は、PANSS 改善はそれほど簡単には改善しないと思う。

・在宅患者さんで、このようにレキサルティを使用している患者さんがいたので継続すれば、良くなるのか興味があつて聞いてみました。

【質問②】

・以前はエビリファイを使用されていたようですが、陽性症状や不眠、アカシジアが出ることもあると言われておりました。エビリファイは 3 mg、6 mg、12 mg など様々な規格があるが、レキサルティは 1 mg、2 mg と用量幅が少ないのは薬理作用によるものなのか？

⇒エビリファイは、発売当初は統合失調症のみの適応であり、安定するまでに時間がかかった。規格が多いのは、適応症の追加により、双極性障害の躁状態やうつ病の増強療法などで使用されることになったことが考えられる。エビリファイはドパミンの刺激が中心なので、用量の微調整が必要と考えている。

・レキサルティも様々な規格が出てくる可能性はあるのか？

⇒海外では 0.5 mg錠が発売されております。日本でも今後の適応追加などによる規格の拡大は考えられる。